

第270回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 令和3年7月12日(月) 11:00~12:30

2 開催場所 宇都宮東武ホテルグランデ

3 委員の出席 委員総数 5人  
出席委員数 5人

(1) 出席委員の氏名 小笠原 伸 (委員長)  
君島 理恵 (副委員長)  
青木 敬信  
新井 啓泰  
高橋 淳

(2) 放送事業者側出席者 鈴木 峰雄 (代表取締役社長)  
佐藤 望 (放送部長)  
高賀茂 沙緒里 (放送部)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

2021年5月23日に放送した特別番組「“ダイブ” ~binaural anthology~」について、試聴と意見交換をおこなった。

事業者：

この番組は、昨今の音声メディア(youtube・配信アプリ)で人気を集めているASMRやバイノーラル音声を使い、ラジオでも、その技術を使った音声メディアとしての魅力の発信や、バイノーラルコンテンツを成長させられるのではという観点で企画・制作したラジオドラマです。バイノーラル音声での放送は、RADIO BERRYでは初の試みとなります。

今作はラジオドラマとして、バイノーラル音声の特徴である「まるでそこにいるかのような臨場感」を重視しました。ヘッドホン・イヤホン等で聴いていただくコンテンツですがRadikoで、放送後でも後日ゆっくりと楽しめる番組です。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：とても興味深く聴かせてもらった。どのように作ったのか気になった。

委員：イヤホンで聴くと、音が後ろから聴こえてきて驚いた。  
臨場感があり、クオリティの高い手法だと思った。

委員：正直、レディオベリーが作ったとは思えなかった。  
出演者が声優だと思ったら、アナウンサーやADの子だと聴いて驚いた。  
レベルが高いと思った。

委員：こういったものは、人選が大切。聴く人のツボを狙って作っていくといいのではないか。  
今後、声の魅力を伝えられる企画が期待される、

委員：“ダイブ”というタイトルと、内容との関連性がわからない。

委員：八尺様は、夜に1人で車に乗って聴いていたら怖いと思う。

委員：須賀さんの淡々としたナレーションが場面を想像させて上手いと思った。

委員：須賀さんのナレーションが早いテンポで一本調子。  
自分は突き放された印象を受けたが、これが良いのか悪いのかはわからない。

委員：1人の女性の声で、おじいさん・おばあさんを演じているが、  
違いがわかりづらく話に入り込めなかった。

委員：この話は、窓を叩く音がポイントだと思う。  
怖さを引き立てる演出なので、そこをもう少し丁寧に録音して聴かせたほうが良かった。

委員：後半の話は、最初どんな物語なのかわからず、聴いているうちにラブストーリーだと理解した。  
ただ、最後のオチがよくわからない。もう少し脚本的に説明してほしい。

委員：須賀さんが役になりきっていて良かった。

委員：全体的にもっと効果音を使ったほうが良かったと思う。

委員：物語とナレーションの区切りや、場面転換がわかりづらいので、  
もう少し工夫してほしい。

委員：今後は物語の舞台を栃木県にするなど、県内の匂いのするストーリーを作ると良いと思う。

委員：ながら聴きでも、聴き入ってしまう力があつたと思う。  
「世にも奇妙な物語」のように、シーズン展開でやってみるのも面白いと思う。

委員：今後、音声メディアの事業可能性が大きくなってくる。  
表現者として、こういった新しい技術を現場に提供して欲しい。

委員：制作風景などの動画記録や、CDなどに残していく工夫もしていくといいと思う。

委員：番組すべてをリアルタイムで聴くのは難しい。ラジコに誘導する必要がある。  
そういった宣伝などを、どうやってしていくかが大きな課題となる。

委員：こういったものにチャレンジすることで、制作のスキルやモチベーションも上がるだろう。  
FM栃木の1つの特徴になっていく可能性もある。今後に期待したい。

(以上)

(2) その他  
なし

(3) 次回開催日程について  
次回の開催を9月6日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日  
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日  
(1) 放送 7月25日(日)午後 7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内  
(2) 書面 本社事務所に備え置き  
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項  
なし